

## 学校感染症及び出席停止期間の基準

医師により下記の感染症と診断された場合、学校保健安全法の規定により、また本人の休養と他の児童への感染を防ぐため、出席停止と致します。(この休み期間中は、欠席扱いにはなりません。)

出席停止期間は下表のとおりですが、医師の登校許可があるまでは外出は控えて、ご家庭でゆっくり療養するようにしてください。

	感染症の種類	出席停止期間の基準
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5NI）新感染症	治癒するまで
	インフルエンザ（H5NIは除く）	発症後5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで
第二種	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹（はしか）	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹（三日ばしか）	発疹が消失するまで
	水痘（水ぼうそう）	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
	新型コロナウイルス	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで
	第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎（はやり目）、急性出血性結膜炎
その他の感染症の例 溶連菌感染症、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑（リンゴ病）、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感染症、感染性胃腸炎、他学校長が認めたもの		条件により出席停止となる感染症であり校長が学校医、またはその他の医師の意見を聞き期間を決定

※但し、症状により医師が他への感染の恐れがないと認めたときは、この通りではない。